

番号	22	令和元年度公共事業再評価調書			担当課名	街路整備課
事業名	街路整備事業			事業主体	静岡県	
箇所名	都市計画道路 <small>とし けいかく どうろ</small> 西間門新谷線 <small>にしまかど あらやせん</small> (4工区) <small>こうく</small>			関係市町村	駿東郡清水町	
事業採択年度	平成 22 年度		計画期間	平成22年度 ~ 令和3年度		
用地着手年度	平成 22 年度		工事着手年度	平成 28 年度		
再評価理由※	再評価実施(H26)後5年間が経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円 1,800	投資状況 (百万円)	~H29年度 1,113	H30年度 70	R1年度見込 145	計 1,328
事業概要	<p>(1)事業目的 本路線は、沼津市、清水町及び三島市の2市1町を連絡する広域的な幹線道路であり、周辺には清水町役場、国立病院機構静岡医療センター及び大型商業施設などの行政、医療及び観光施設等の主要施設が点在している。また、災害時には役場、医療施設及び避難所等を結ぶ重要なアクセスルートに指定されている。</p> <p>本路線及び周辺道路には交通が集中し、朝夕の通勤時間帯を中心として渋滞が発生している。また、当事業区間は近隣の清水中学校の通学路となっているが、見通しが悪い上、幅員も狭小で歩道がなく危険な状況となっている。</p> <p>そのため、当該区間を整備することにより走行空間の円滑化を図るとともに、現道拡幅に併せて無電柱化を実施することで震災時のアクセス機能等の向上を図るものである。</p> <p>(2)事業内容 清水町道268号線から柿田橋右岸に至る区間の道路の改築 延 長：400m 道路幅員：18.0m、2車線、両側自転車歩行者道 (車道幅員3.0m×2、自歩道部幅員4.5m×2)</p>					
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化					
事業の必要性	<p>本路線の周辺では、公共施設、医療施設及び大型商業施設等の施設が整備され、都市化の進展とともに交通量が増加している。また、近年、県全体の人口が減少する中で、清水町の人口は横ばい傾向にあり、その中でも20歳代の人口は増加していることに加え、清水町では、単位人口あたりの新設住戸数が県平均を上回るなど、将来的な都市の活性化が想定される。</p> <p>このような状況変化に伴い、当該区間の整備の必要性が高まっている。</p> <p>(2)事業の投資効果 現時点(R1)の分析結果：B/C=1.35 ・総便益(B) 25.60億円 (走行時間短縮便益 25.80億円、走行経費減少便益 0.08億円、交通事故減少便益 -0.28億円) ・総費用(C) 18.96億円 (建設投資額 19.53億円、維持管理費 0.17億円、用地残存価値 0.75億円)</p> <p>(3)事業の進捗状況(R1年度末見込み) 事業費ベース：73.8% 1,328百万円/1,800百万円 工事費ベース：33.6% 209百万円/622百万円 事業量ベース：供用延長 0% 0m/400m 用地面積ベース：98.1% 4,389㎡/4,477㎡</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>残地権者(4件)の用地取得を目指して用地交渉を重ねており、令和2年度末までに取得を完了する見込みである。今年度以降も引き続き残区間の工事を行い、令和3年度末に事業を完了する見込みである。</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>建設発生土の工事間流用(近隣の他工事)を実施しており、引き続き工事コストの縮減を図る。</p> <p>本路線の周辺では、近年、新たな工業用地への工場立地や大型商業施設の増床(R1秋予定)が行われていることから、当該区間の整備により、地域の活性化を図る。</p>					
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を <input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し後継続 <input type="radio"/> 中止 )する。</p> <p>(2)理由 沼津市、清水町及び三島市の主要拠点や主要路線を結ぶ重要な路線であり、本路線の整備により市街地内の移動が円滑になるとともに、現道拡幅に併せて無電柱化を実施することで災害発生時のアクセス性の向上が図られることから、機能的で安全かつ快適な都市生活に資する街路事業である。費用対効果も見込まれ、用地買収及び工事も順調に進捗しているため、事業を継続して早期完成を図る。</p>					

## 都市計画道路 西間門新谷線(4工区)

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市局 平成30年2月)

### 総括表

I) 総便益 B	25.60 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	18.96 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.35

### I) 総便益の算出

#### ①各種費用のR17<sup>※1</sup>の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行経費 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計年間経費 (億円/年)
整備しなかった場合 A	296.27	72.27	18.86	387.40
整備した場合 B	294.87	72.27	18.87	386.01

便益 A-B	1.40 時間便益	0.004 走行便益	-0.01 <sup>※2</sup> 事故減少便益	1.39
-----------	--------------	---------------	-------------------------------	------

- ・「時間便益」: 道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」: 走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」: 道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

#### ②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	走行時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総便益 (億円)
総便益(R4~R53)	25.80	0.08	-0.28	25.60

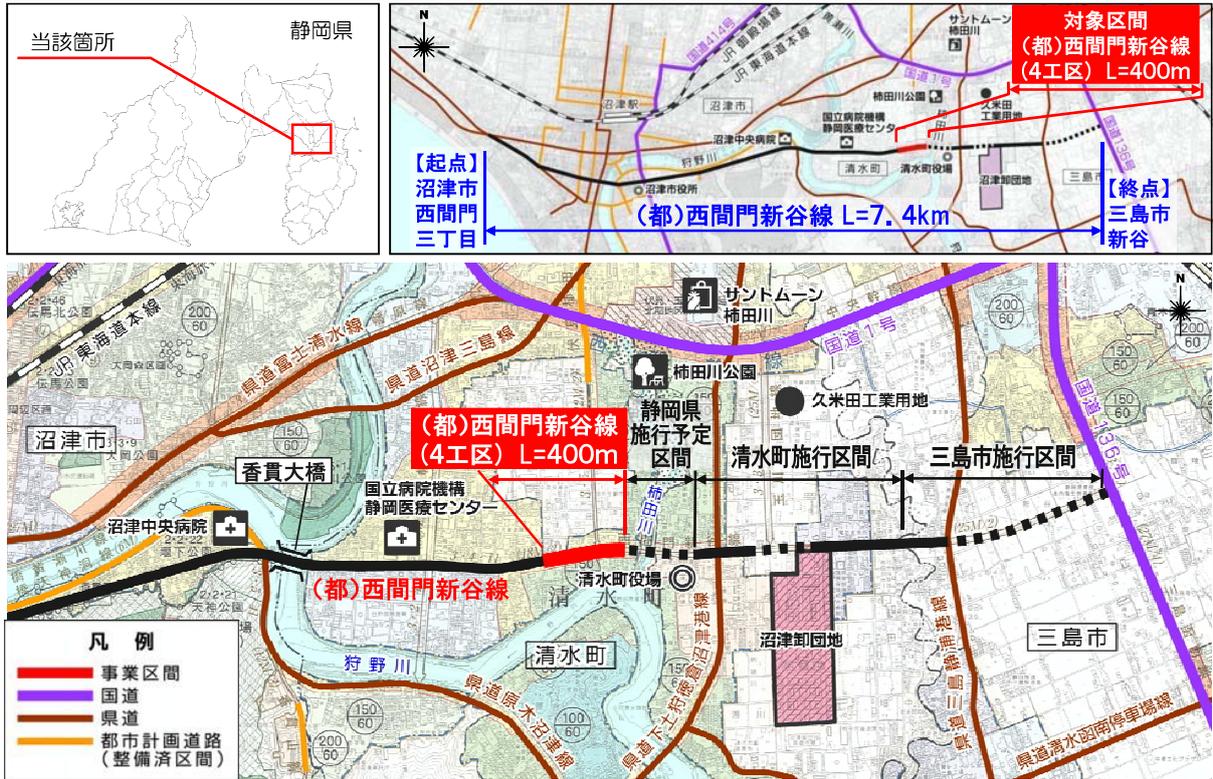
### II) 総費用

[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

建設費用 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費用 (万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
17.09	19.53	96.25	0.17	0.75	18.96

- ・「建設投資額」: 建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年度ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」: 整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」: 検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

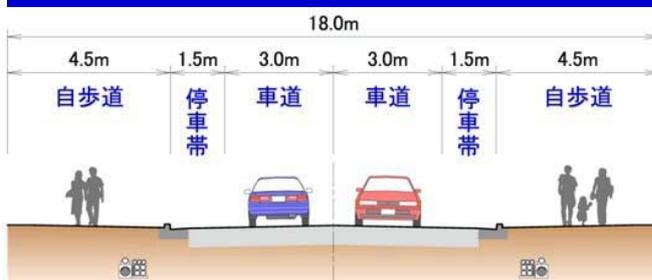
# 位置図



# 計画平面図・標準横断面図



## 標準横断面図



## 事業概要

計画延長：400m  
 道路幅員：18.0m  
 車線数：2車線  
 計画期間：平成22年度～令和3年度  
 全体事業費：1,800百万円

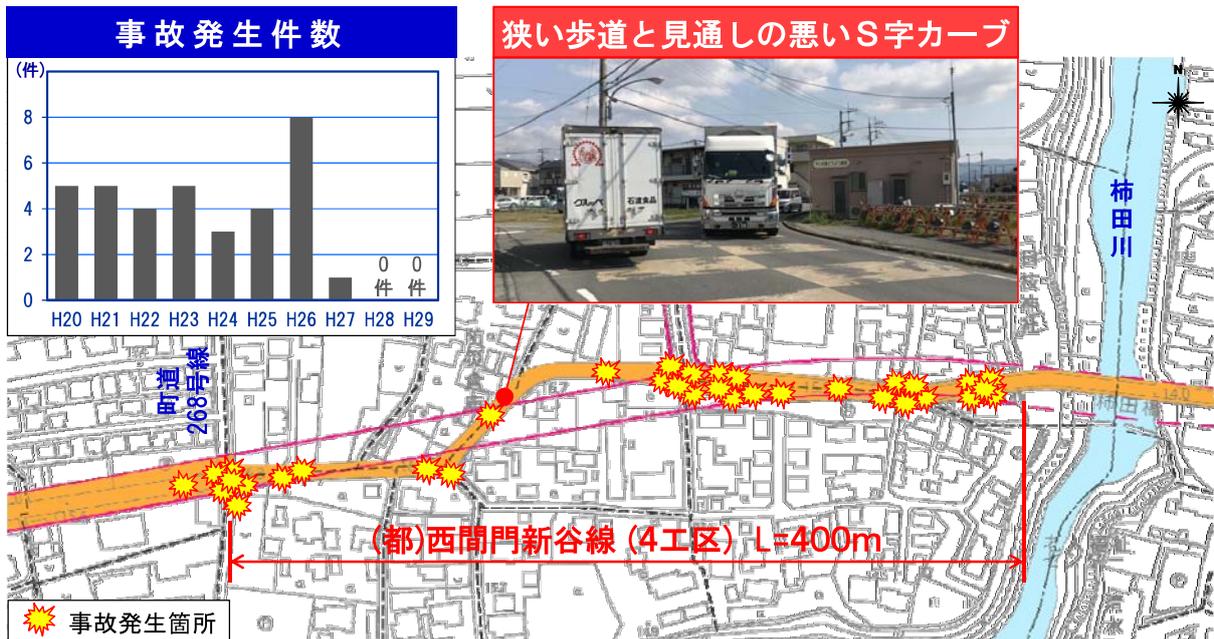
# 道路状況(渋滞)

■ 平成7年に狩野川を渡る香貫大橋が完成し、沼津市と三島市を結ぶ新たな東西のルートが確保されたことにより、本路線及び周辺道路には交通が集中し、朝夕の通勤時間帯を中心として渋滞が発生している。



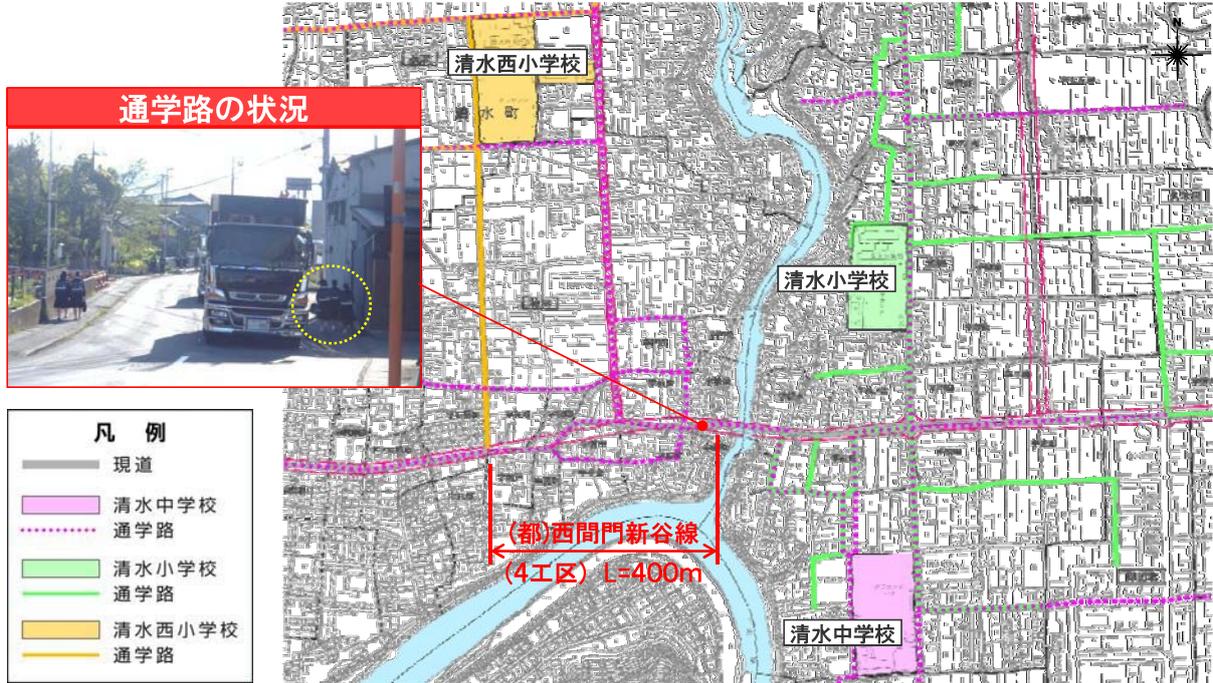
# 道路状況(交通事故)

■ (都)西間門新谷線(4工区)の区間では、見通しの悪いS字カーブがあり、交差点付近や狭隘部等において、最近10年間で交通事故が35件発生している。



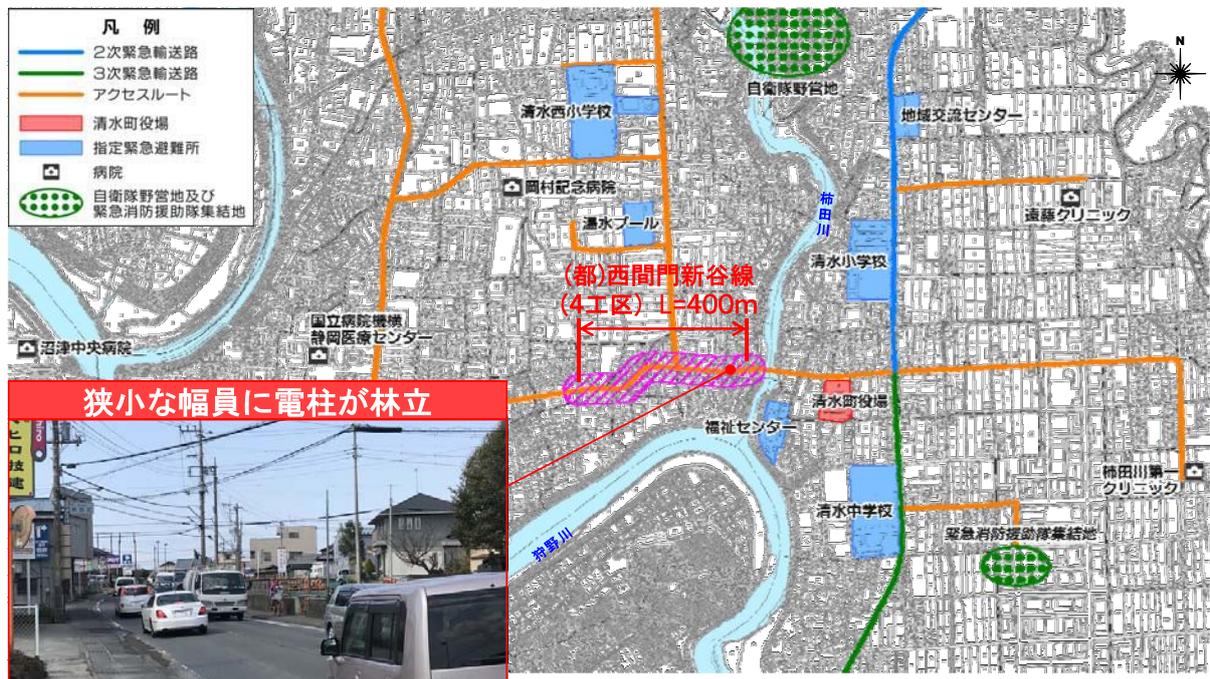
# 道路状況(通学路)

■ (都)西間門新谷線を挟んで学校が点在しており、現道は通学路に指定されているが、歩道は狭く、通学時の安全が確保されていない。



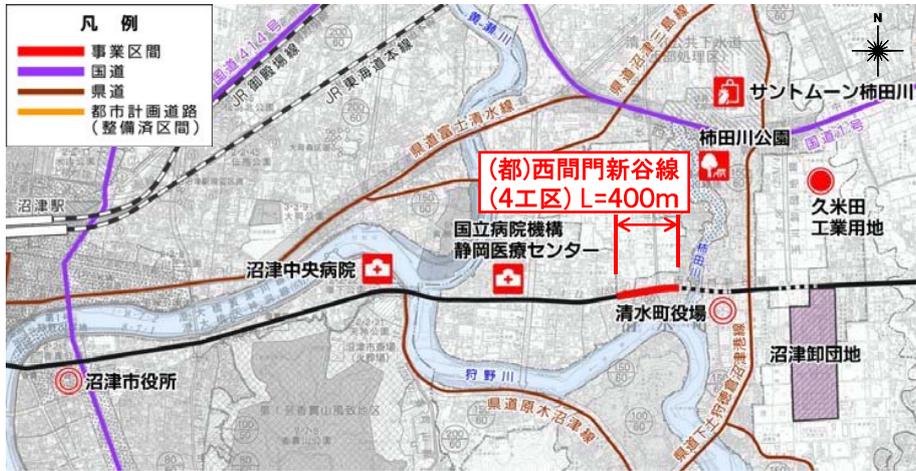
# 道路状況(緊急輸送路等)

■ 「清水町地域防災計画」では、役場、医療施設及び避難所を結ぶ重要なアクセスルートとして本路線が指定されているが、幅員は狭く電柱が林立している。



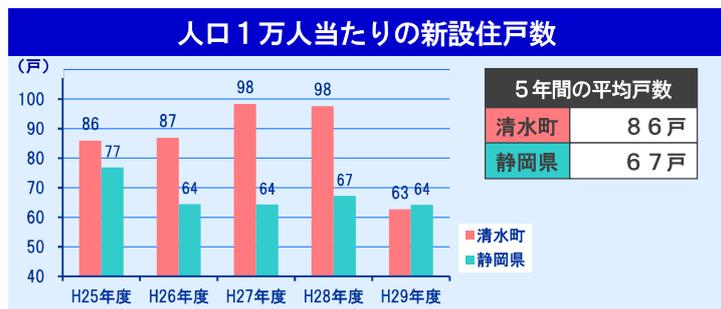
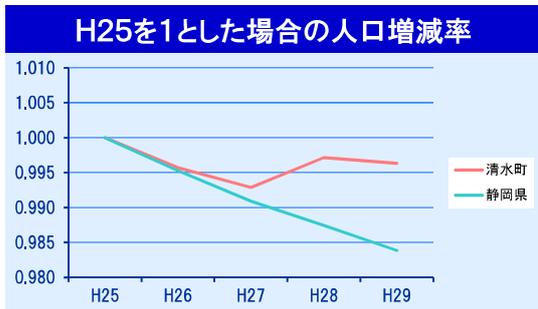
# 事業を巡る社会経済情勢の変化①

■ 西間門新谷線の周辺では、公共施設、医療施設及び大型商業施設等の施設が整備され、都市化の発展に伴い交通量が増加している。



# 事業を巡る社会経済情勢の変化②

■ 県全体の人口が減少している中で、清水町の人口は横ばい傾向にある。その中で、清水町の20歳代の人口は増加している。また、人口1万人当たりの新設住戸数は、県全体と比較して清水町は多い傾向にあり、将来的な都市の活性化が想定される。



## 道路整備効果①

### ■ 交通の円滑化

見通しの悪いS字カーブのある現道が、スムーズな線形の道路に改善され、走行性が向上する。



見通しの悪いS字カーブのある現道



完成区間のスムーズな線形の道路

## 道路整備効果②

### ■ 自転車・歩行者の安全確保

### ■ 無電柱化による防災性の向上



完成区間の無電柱化された道路



# 事業の投資効果

$$\text{費用便益比 (B/C)} = \frac{\text{走行時間短縮便益} + \text{走行経費減少便益} + \text{交通事故減少便益}}{\text{総費用}} = 1.35 \text{ (1.43)}$$

総便益(B)の現在価値	25.60億円	(25.11)
走行時間短縮便益	25.80億円	(22.87)
走行経費減少便益	0.08億円	(2.16)
交通事故減少便益	-0.28億円	(0.08)

総費用(C)の現在価値	18.96億円	(17.56)
事業費	19.53億円	(18.08)
維持管理費	0.17億円	(0.14)
用地残存価値	0.75億円	(0.66)

- 注1) 総便益及び総費用の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある  
 注2) 右側の( )内の数値は前回再評価時(H26)の値を示す  
 注3) [総費用]=[建設投資額]+[維持管理費]-[用地費の残存価値]

# 事業の進捗状況(用地補償)



用地面積ベース: 98.1% (令和元年度末見込み)

# 事業の進捗状況(工事)



事業費ベース: 73.8% (令和元年度末見込み)

# 今後のスケジュール

		年度									
		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
(平成26年度) 前回再評価	用地補償	事業期間							(令和2年度末) 供用予定		
	工事	事業期間									
今回	用地補償	事業期間							(令和3年度末) 供用予定		
	工事	事業期間									

## 対応方針(案)

- 国道136号、国道414号をはじめ、沼津市、清水町及び三島市などの主要拠点や主要路線を結ぶ重要な路線
- 市街地内の移動の円滑化
- 通行の安全性の向上
- 無電柱化による防災性の向上



機能的な都市活動と  
安全で快適な都市生活に資する街路事業



事業を継続し早期完成を図る